

KEY TOPIC

第3四半期 経常利益前年比3.7倍増

1月31日、当社グループ2024年3月期 第3四半期決算短信を公開いたしました。売上高は前年同期比116.3%となる7,063百万円、営業利益同比208.6%の158百万円、そして経常利益は同比268.4%の160百万円となりました。これら業績アップは「広告を科学する」のキーワードのもと推し進めた「ハイブリッド広告」の成果が要因としてあげられます。成功事例をグループ各社から聞きました。

データをもとにした提案で 比類なきフリーメディアへ

昨年11月に関西ばどを迎え、中広はグループの強化に一層、力を入れてまいりました。全グループおよびVC加盟社と共にポスティング型フリーメディア『地域みっちゃく生活情報誌[®]』を中心としたハッピーメディア[®]の発行を推進し、この度の第3四半期決算も利益増の発表となりました。期内の12月には中広メディアソリューションズが「ARIFT山形版」を4エリアで創刊。2月末現在、情報誌は全国31都道府県134誌、月間の総発行部数は11,079,855部となります。

当社グループが強力に推進しているのはノウハウの蓄積をもとにした地域経済の活性化、そして課題解決を企図した変革です。特に紙媒体広告へのQRコード掲載でウェブへと誘導するメディアミックス「ハイブリッド広告」と読者のレスポンスを地域や部数、広告する時期や連載回数、サイズやキャッチコピーといった編集方法など、膨大なデータから「広告を科学する」手法を強化。100万件にのぼる情報誌広告レスポンスデータから得た業種別正攻法の共有や、最新の読者傾向を踏まえた提案営業が可能となりました。

1,100万部を超える各戸配布型のメディアは、日本でも最大規模を誇ります。しかしそ

の発行網に甘んじることなく、ウェブとの共創および効率的な反響・成果を求めてデータの利活用に注力しています。

第46期も残りわずかとなりました。今期のスローガンは「ABCX」です。DX化による広告の効果測定と分析を駆使したフリーメディア広告の進化、グループのビジネスモデルの深化、そして中広グループ独自ノウハウの蓄積と人材育成によって地域の課題解決を推し進めてまいります。

「不易流行」のテーマのもと新しい手法を取り入れながら、これまでのノウハウを徹底活用して、残りの時間もあきらめることなく地域の活性化に努めます。

成功事例を紹介 ▶▶▶ 中広グループでは情報誌のほかにも多彩なハイブリッドが大きな成功をもたらしています。

ウェブと紙の強みをいかす ハイブリッド広告が好調!

昨年2月から採用ウェブサイトアットカンパニーを利用する「おれんじ保育園」情報誌「まいなあ」での広告掲載時には採用サイトに誘導するQRコードを掲載し、1年間でQR読み取り数150件、求人応募数は63件に上りました。採用コストを大幅に抑えながら採用人数をしっかりと確保でき、ウェブと紙のハイブリッド広告が効果を発揮しています。紙とウェブの相性は抜群です。契約当初から採用サイトの反響の高さを実感いただき、半年後には契約プランのアップ、年間契約終了時に再度プランのアップをし、今年2月から1年間の更新契約となりました。



中広FM事業部
「まいなあ」
榎尾

全社ノウハウをいかして 立体的な提案が可能に

1月22日、元プロビーチバレー選手の浅尾美和さんをお招きし、トークショーを行いました。テーマは「健康・ジェンダー・未来」。主催者の希望を叶えるため司会者を派遣して打ち合わせを重ね、台本も当社で制作しました。当日は浅尾さんの人柄がにじみ出る和やかな会となりました。当社のイベントセミナー事業は30年の歴史があります。出演者ブックイング以外にも台本作成から当日の運営まで、地ったノウハウでワストップの対応が可能。中広グループは情報誌による広告に加え、全社のノウハウをいかした包括的な提案を実現します。



中広SP事業部
イベントセミナー部
寺尾

紙からSNSへQRで誘導 情報量と魅力がアップ!

「くれよん」清須・あまチームでは、四半期に一度、企業特集企画を実施しています。なかでも好評だったのが、昨年10月号で実施した、「大人の社会科見学」です。企業特集では、これまで求人情報・地元ブランディングの2軸で提案を行ってきましたが、「大人の社会科見学」では誌面にSNSへ誘導するQRコードを掲載。Instagramのリールを付け、動画で工場・職場見学ができるよう工夫しました。情報誌の掲載にSNSをミックスして新しい見せ方ができ、さらに動画の制作費用が加わってページ単価を上げることに成功しました。



ケイ・クリエイティブ
「くれよん」清須・あま
大島

情報誌のアンカーとして ハイブリット広告へ繋げる

中広グループが発行する「地域みっちゃく生活情報誌[®]」の配布を担当エリアで実施、管理しています。仕事を通じてうれしい瞬間は、現場で情報誌を手渡す際に「ありがとう」や「毎月読んでるよ」と声をかけていただけることで、これは広告のみのチラシだと、なかなかけてもらえない言葉で、情報誌ならではの受け取られ方です。手配りというアナログな手法でクーポンやデジタルな広告まで反響に繋がれるよう、地域みっちゃく型情報誌ならではの「配布密度」の高いポスティングで「地域を元気に!」という使命をもって、これからも走り続けます。



ケイビーエス
ポスティング事業部
有山

エリアの特性を理解し 家庭で話題となる情報を

近年、費用を抑えられることから注目されている樹木葬。情報誌「ARIFT」では、終活として生前に自分で葬儀の内容を決めておきたい人、親のために決めなければいけない人など、さまざまな状況にある読者のために、発行エリアでまだ認知度が低い樹木葬を広告で紹介しました。一般的にお寺は春が忙しいため、冬のうちの告知を提案し連載が決定。地域柄、広い墓地区域は少ないですが、読者にとって必要な情報を届けることができました。全国で情報誌を発行する中広グループだからこそ、データをそれぞれの地域に落とし込み、特性にあった提案を心がけています。



中広メディア
ソリューションズ
横浜支局横浜2課
中村

リニューアルで魅力増 アプリと連動した誌面

「ばど」は今年の1月号で大幅リニューアルに取り組みしました。一番のポイントは地元グルメ情報を満載する特集記事の掲載と、誌面×アプリ連動のクーポン特集、そして毎号テーマに合わせた特集の実施です。デジタルと紙の「ばど」をアプリやウェブで連動させることにより、それぞれの広告媒体の効果をあげています。フリモアプリとの連動企画は持ち歩けるクーポンが好評。アプリからSNSやウェブに誘導することで閲覧数などを数値化しています。デザインを一新し、内容も見た目もリニューアルした「ばど」。地域の期待に反響で応えていきます。



関西ばど
「ばど」京阪北版・京阪南版
三枝

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です

あきらめたら、あかん 自分の能力の限界を勝手に決めるな

読んで歩いて書き込んで 私なりの千日回峰行

コツコツとセッセと、毎朝続けてきました。早朝ウォーキングを始めたのが15年前、ブログを始めたのが17年前になります。

56歳のときに人工股関節の手術を受け、3週間ほど入院。「留守中は、私達にお任せ下さい」という社員からの見舞いボードに励まされ、リハビリを経て現場に復帰しました。健康管理のためと言えば聞こえは良いですが、ゴルフで負けたくないからという負けず嫌いが動機でウォーキングを始めました。

そして、もう一つがブログです。2007年2月に名古屋証券取引所セントレックスに上場。証券会社からIR(インベスター・リレーションズ)をやるべきだと指導を受けました。ウェブサイトを毎日動かせばIRに匹敵すると思いつき、ブログを1,000日書き続けました。毎日読んでくれる方から「千日回峰行、達成おめでとうございます」とメッセージが届き、「比叡山延暦寺の千日回峰行を2度、満行した方がおられます」と言われ、「じゃあ、もう1,000日」と続けると、苦も無く2,000日を通過。2007年10月15日からスタートし、今年3月13日で6,000回を迎えることになります。

毎朝、新聞を読んで知見を広げ、1時間歩きながら思考を重ね、ブログに思いをアウトプットする。私なりの千日回峰行。この習慣を今後も続けていこうと思っています。

国民は政治を あきらめてはならない

通常国会が開幕しました。冒頭からパーティー券裏金事件問題で紛糾、慣例に反して首相による施政方針演説が後に回りました。この異例さこそが政治不信の現れです。

「自民党は変わらねばならない、私自身が先頭に立ってしっかり実行していく」と首相は演説します。能登半島地震の被災者を「しっかり」と支えると強調し、国民に追加負担は求めぬ少子化対策を「しっかり」とやりと繰り返し、財源は「しっかり」と歳出をカットし、「しっかり」した改革と「しっかり」した賃上げで「しっかり」と効果を見込むという。歴代首相の施政方針演説で、これだけ「しっかり」を連発する虚しい演説を聞いたことがありません。「しっかり」やってみたいとの願望のようでもあり、信頼して欲しいという哀願にも受け取れてしまいます。

岸田政権では総選挙を戦えない、しかし政権から転落するわけにはいかない。今年9月の党総裁任期切れまでに、首相退陣は避けられそうにありません。国会閉幕と同時に首相の手で解散、総選挙となれば、与野党逆転で政権交代も起こるかもしれません。

英国の歴史学者は「一つの国が減びるのは戦争によってではない。天地異変でもなければ経済的破綻によってでもない。国民の道徳心が失われた時、その国は滅ぶ」と言いました。政治は国民のものです。この国の衰退の根本に、政治に対する国民の無関心があると思っています。国民は政治をあきらめてはならないのです。



25年前、闘病中に受け取った社員からの見舞いボード

今、汝は画れり 志のある人となれ

不変の真理として、生ある限り必ず死は訪れます。若かりうが高齢であろうが人生は一度きりで、自分の人生は自分でしか生きられません。人生は「いま」の連続なのです。一人ひとり、かけがえのない存在です。自分自身に力をかけて、人生を全うしてほしい、手抜きをしないで生きてほしいと思っています。

「論語」雍也に、こんな言葉があります。「冉求曰く、子の道を説ばざるに非ず。力足らざるなり」。

子曰く、「力足らざる者は、中道にして廃す。今、汝は画れり」。

孔子の門人である冉求は「先生の道を喜ばないわけではありません。(私が先生の教えについていけないのは)力が足りないからなのです」と言います。これに対し、孔子は「(ほんとに)力の足りない者は、(やれるだけやり、力尽きて)途中で投げ出してしまふのである。(ところが)今おまえの場合は、(実行もしないで、はじめから)自分の能力に限界を決

めてかかっているのだ」と弟子の消極的態度を戒めました。

「今、汝は画れり」の「画れり」とは、初めから限界を決めて能力に見切りをつけていることを意味します。師は弟子に対して、自分で自分の能力を見限りあきらめてしまってははいないか。勝手に自分の限界を決めてはいけない、「あきらめたら、あかん」と励ましているのです。

自分自身の能力の限界を、あなたは感じるがありますか。でも、それは本当の限界ですか。単なる苦手意識や弱みではありませんか。例えば、親が子どもを叱るとき、背景には親の願望があります。自分の人生ではできなかったこと、諦めたことを子どもに託し、躰として正当化しようとします。自分の思うようにならないと子どもに対して怒り、だんだんと自制が効かなくなり折檻になります。虐待とは親自身の未熟さそのものなのです。親が自分をあきらめなくて努力をしていれば、子どもは育つものです。

また最近、こんな禅問答にも触れました。弟子「人間はなぜ、成功(目標を實現)する人となしな人がいるのか」
老師「成功する人は努力するからだ」
弟子「努力する人と努力しない人がいるのはなぜか」
老師「努力する人は志があるからだ」
弟子「なぜ志のある人となし人があるのか」
老師「志のある人は、人間は必ず死ぬということを知っているからだ。志のない人は人間が必ず死ぬということを本当の意味で知らない。その差だ」

この禅問答に対し、二つ意味があると私は理解しました。人は必ず死ぬからこそ、生ある限り精いっぱい生きねばならない、そして志がある限り「画れり」ではだめ、あきらめてはならないと。

私の志は「日本全国5,000万世帯に日本を元気にするため、ハッピーメディア[®]『地域みっちゃく生活情報誌[®]』を届けること」です。30年近くかけて現在1,100万部余り。あとわずか3,900万部。人は言います。「そんな夢みたいなこと、できるはずない。誰もやったことがないのだから。現代はネット社会、紙のメディアをリアルにポストに入れるなど、もはや時代遅れだ」と。そうですね。

でも、私はできると信じ「日本の元気のために」、限界を持たず突き抜けたいと思っています。人は不思議です。強く揺るぎない志を持って覚悟すると行動が変わります。「あきらめたら、あかん」のです。

2024・弥生・春告鳥の幼鳴きに励まされ。二代目・後藤数次

春に向けて習いごとを

進学・進級と新たなステージを迎える春に向けて、習いごとは子どもたちの可能性を広げるチャンスです。子どもの教育に力を入れる保護者が増えると共に、地域では学習塾の数も増加しています。保護者が子どものために塾を選ぶとき、その塾の教育方針は気になるところ。そこで、地域で「子どもの才能開花」に挑む2人の塾長に話を聞き、巻頭特集で紹介しました。インタビュー内容はどのような方針で塾を運営しているか。「子どもの可能性を引き出す 地域の教育プロジェクト」と題し、熱い思いを話してもらいました。誌面ではそれぞれの考えを深くまで伝えることができ、大変好評でした。巻頭特集に続く「習活のすすめ」企画も充実した内容をお届けでき、前年度の習いごと特集より売上は1.2倍増！再来年に向けて新しい取り組みを企画して、地域のみなさんに有益な情報をお届けできるよう励みます。

(ふぁみんぐくらぶ編集室・瀬戸)



県の支援をわかりやすく丁寧に周知

愛知県福祉局児童家庭課による広報ポータルに参加し、妊娠したもののさまざまな問題を抱え、自分で子どもを育てることが難しい女性に向けた里親制度普及促進のための啓発カードとカードスタンドの制作業務を受託しました。「『どうしよう…』ひとりで抱えないで」というキャッチコピーで妊娠に悩む女性を受け止める窓口や制度があることを示し、各種窓口のQRコードを配置。「誰に相談すればいいかわからない」「病院に行くのが怖い」など、具体的に妊娠した女性が抱える悩みを出しながら、不安を柔らかく受け止めるイメージを与えられるデザインで制作しました。

制作したカードは愛知県内の市町村の役所に設置されたほか、必要とする人が人目を気にせずカードを手にすることができるよう、ドラッグストアやコンビニの女性用トイレにも設置されました。

乳児遺棄などの痛ましい事件をなくしていくために、啓発カードを通じて一人でも多くの女性に里親制度や相談窓口の存在が認知されることを祈っています。

(名古屋SP1課・鳥丸)



告知運営フォローで確実な進行を

日本全体で喫緊の課題となっている事業承継に関するさまざまなサポートをする独立行政法人中小企業基盤整備機構中部本部主催のパネルディスカッション「女性後継者と語る 事業承継と新事業展開」の広報・運営のお手伝いをしました。登壇パネリストである女性後継者のしなやかさと強さを表現した告知ツールでイベントを訴求、関係機関の担当者ほか多くの来場申込をいただきました。また当日の円滑な進行のため、当社イベントセミナー部の専任スタッフが台本作成ほか進行をフォロー。パネルディスカッションでは、事業承継を好機と捉え、将来を見据えた事業展開を強化している愛知県・岐阜県・三重県の事業者(女性後継者)の取り組みを、「事業承継をするまで」と「事業承継後の展開」をテーマに紹介。来場者に事業承継に早期に取り組む必要性と、将来を見据えた新事業展開について考えるきっかけを提供いただきました。地域社会への貢献を掲げる当社としても非常に勉強になる機会をいただくことができました。

(名古屋SP1課・尾関)



本格シーズンに向けイチゴの情報が満載に

イチゴシーズンの到来に合わせ、巻頭特集から4ページにわたるイチゴの特集を企画・実施いたしました。巻頭特集「群馬のいちごめぐり」では、フリモスタッフの写真を取り入れ、美食レポと共に群馬全域を対象とした、スイーツも味わえる直売所を紹介する楽しい内容に。「I♡(Love) Strawberry」では、イチゴ狩りや直売、イチゴを使ったスイーツなど、イチゴを楽しめる地元の店舗を幅広く紹介いたしました。農園をはじめ、本格的なシーズンに向けたPRを希望するクライアントとのタイミングもピッタリと合い、イチゴの情報が満載の誌面になりました。

読者からは「群馬全域のイチゴ情報を知れて良かった」「かわいいうイチゴつくしで明るい気持ちになります」「参考にして、食べ歩きなどイチゴ三昧したいと思います」といった喜びの声を多数いただき、誌面を通してイチゴの季節を感じていただけたようです。これからも、季節感のある企画、誌面づくりに励んでまいります。

(前橋フリモ編集室・遠間)



決算発表～3Q累計業績も大躍進

1月31日に中広第46期第3四半期累計(4月～12月)の連結決算短信を開示しました。5期ぶりの黒字決算となった上期の業績回復基調を継続し、3Q累計の経常利益は160百万円、前年同期比約3.7倍となりました。

業績回復の牽引役は当社グループ独自の「ハイブリッド広告」。誌面にQRコードを掲載した単なるメディアミックスではなく、読者やユーザーの月間約100万件ものレスポンスを分析・活用することで、広告価値を最大化した広告です。物価上昇や金利の正常化がすすむなか、クライアントに価値を認められる広告しが生き残れません。3Q累計での連結売上高は70億63百万円、前年同期比116%でしたが、4Qには関西ばどの売上も計上されます。さあ、4Qラストスパート、全員営業で邁進しましょう。

(管理本部・倉橋)

第6回愛知県VCサミット開催

2月9日、愛知県VCサミットを開催。愛知県発行状況等を確認しながら、『地域みっちゃく生活情報誌』発行部数5,000万部への思いを再認識しました。成功事例の発表のほか、表紙1(One)コンテストも開催。自慢の号をエントリー、それぞれの表紙に込めた思いを紹介したエントリーシートを見ながら投票し、懇親会にて結果発表。栄えある1位には春日井市発行『月刊はるる』が選ばれました。

終了後のアンケートからは、「同じ年代の方と話ができて良い刺激になった」「今後もさらに交流をしていき愛知県全体、全国と一緒に盛り上げていきたい」など、うれしい声をいただくことができました。今後も各社力を合わせ社会課題に向き合い、愛知県の地域情報を発信してまいります。

(VC事業部・高橋)



▲愛知県6社が名古屋に集結

「全肯定会議」を実施

岐阜市・山県市・岐南町・笠松町で発行するGiFUTO編集室では、より思いやアイデアが詰まった特集企画を立案し読者満足度を向上させ、ご掲載いただくクライアントの広告効果を高めるため、全肯定会議を実施いたしました。より良い企画立案のためには参加者全員がそれぞれの意見や思いを伝えあうことが必要で、そのためには意見を言える場であることが重要です。

もともとGiFUTO編集室はお互いを讀えあえる風土が培われています。今回、あえて全意見の肯定をルール化したことで、さらに発言が活性化し新たな企画立案ができました。今後も全肯定会議だけではなく、クライアントならびに読者の満足度向上に繋がる取り組みにチャレンジしていきます。

(GiFUTO編集室・木澤)

2月、下呂温泉・水明館(岐阜県)で第22回どまつり合宿が行われました。どまつり(にっぽんど真ん中祭り)は、日本のど真ん中名古屋を舞台に繰り広げられる日本最大級の踊りの祭典。合宿には日本全国から参加チームが集いました。合宿の1日目、大島斉社長と、『女子大小路の名探偵』原作者である秦建日子氏、そしてどまつり専務理事の水野孝一氏が「地域×演出×どまつり」をテーマに講演。演出のプロである秦氏と地域創生のプロである大島社長が、エンターテインメントの可能性や地域を巻き込む力などについて話しました。合宿の最後、秦氏は「審査員としてみなさんの演舞を見て『自分も頑張ろう』と力をもらった」、大島社長は「みなさんが作っているのは『日本の未来』です」と締めました。200人以上が参加した合宿で約9割の人から高い評価をいただく結果となりました。

(クオリティマネジメント室・遠藤)



▲地域創生とエンタメの可能性を語る二人

内部監査室



▲内部監査室

内部監査は、組織の経営目標の達成に役立つことを目的として、合法性と合理性の観点から公正かつ独立の立場で経営活動の遂行状況を検討・評価し、これに基づいて意見を述べ、助言などを行う監査業務、および特定の経営活動の支援を行う診断業務です。

会社の目的や目標に向かうための決めごと、「社内規程」「社内ルール」が遵守されているか、「内部監査チェックリスト」を使用し「内部監査」を実施いたします。今期中広の63拠点で実施し、重要な不備はありませんでした。また、「内部監査」とは別に、「業務プロセス」「業務フロー」をもとに、「売上」「仕入」に関する処理について、社内システム等を閲覧し、「手順」「承認」「受領」等が適切に措置されていることを検証、サンプルと合わせ調査および評価シートを作成し内部統制が有効に機能しているかどうか、監査法人に監査いただいております。今後とも社内ルール・社内規定をご理解のうえ、遵守いただきますようお願いいたします。

(内部監査室・森島)

編集後記

45周年を迎えた今期、グループ会社が増え、新しい仲間と共に中広にも新しい風が吹きました。情報誌部門では、紙のポスティング媒体を使いウェブと紐づける「ハイブリッド広告」にチャレンジ。広告のレスポンスを瞬時にデータ化し分析できる広告データは10万件を突破し、レスポンスデータとしては100万件を超えます。システマティックに動く一方で、情報誌発で中広が企画した映画『女子大小路の名探偵』の公開や、#にっぽんオレンジシンボル運動の始動など、人の心に直接訴える取り組みにも向き合ってきました。

4月から迎える新年度は『地域みっちゃく生活情報誌』事業が30周年を迎えます。インフラ部分とそれにのせるコンテンツや思いを深めながら歩んでいけるよう、年度末にしっかりと準備していきます。

(広報・PR室 岡本)

第6回愛知県VCサミットで『月刊はるる』が表紙賞

2月9日に開催した第6回愛知県VCサミットで、イベント「表紙1(One)コンテスト」を実施。愛知県内で発行する各編集室から自慢の表紙をエントリーいただき、当日、参加者による投票を行いました。

最優秀賞に選ばれたのは『月刊はるる』2022年1月号。歴史ある神社で執り行われる巫女の舞を取り上げた表紙です。町内から選ばれた8人の小学生が2年をかけて習得する舞を祭事で披露します。

100年以上続くこの行事をなくしてはいけなと、発行社であるKNS株式会社木野瀬会長自らが筆をとられた表紙・巻頭特集です。地域性が高い『地域みっちゃく生活情報誌』ならではの表紙が受賞し、イベントは盛大に盛り上がりしました。

今後も参加者に充実した会をお届けできるよう取り組んでまいります。

(VC事業部・矢野)



▲最優秀賞『月刊はるる』2022年1月号表紙

地域みっちゃく生活情報誌

4月～5月はハウジング広告の出稿と読者反響が集中

地元で暮らしたい読者に、地元での「家づくり」を

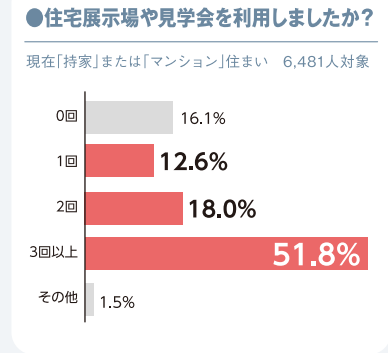
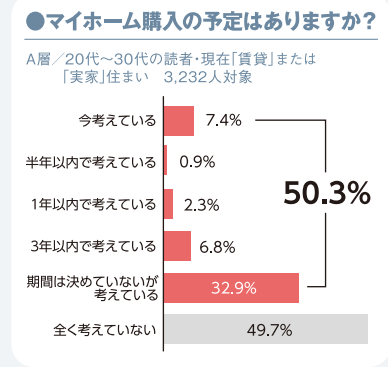
新年度を迎える4月は入学や転居など、生活の変化をきっかけに「家づくり」を検討する人が増加します。『地域みっちゃく生活情報誌[®]』の読者は20代～30代の女性が最も多く、幼い子どもがいる世帯がほとんどです。これからの「家づくり」を考える読者に向けて、地域のハウジング情報をお届けします。

読者の49.4%が20代～30代

『地域みっちゃく生活情報誌[®]』

2023年2月に『地域みっちゃく生活情報誌[®]』の読者11,342人を対象に「ハウジングに関する意識調査(※1)」を実施しました。回答者の年代別割合では20代が19.2%、30代が30.2%と半数近くが20代～30代に集中していることがわかりました。20代～30代の読者の住環境を聞いたところ、「賃貸」が49.2%、「実家」が8.5%という結果。半数を超える57.7%の読者(A層)がこれから「家づくり」を検討すると予想されます。次にA層を対象に「家づくり」を検討しているかという設問には「期間を決めていないが考えている」と答えた人が32.9%、「3年以内に具体的に家づくりを検討している」と答えた人が17.4%ということで、50.3%の人が現在「家づくり」を検討していることが明確になりました。

※1 CDMR2023年2月号「ハウジングに関する意識調査」



家づくりのきっかけは

結婚と妊娠・出産で52.6%

ハウジングに関する意識調査では、現在の居住環境が「持家」と答えた読者に「家を建てたきっかけ」について聞きました。「結婚」が31.6%、「妊娠・出産」が21.0%、「子どもの入園・進学」が27.9%と、20代～30代に集中しやすいライフイベントが「家づくり」のきっかけになるようです。特に「子どもの入園・進学」を機会に「家づくり」を検討する人が27.9%と非常に多いことから、新年度を迎えるこの時期は多くの人が「家づくり」を考えると予想できます。

家づくりを検討中の58.7%が

地元で家を建てたい

現在「家づくり」を検討していると答えた読者には、希望の住居エリアについて聞きました。結果は「市内」と答えた人が58.7%。過半数が地元での「家づくり」を望んでいるようです。

情報誌は、市や区という地域に密着したエリアセグメントで情報を発信。読者が住む街、地元の情報に限定して「今すぐ使える生活情報」をお届けしています。地元での「家づくり」を考える読者に、地元のハウジングメーカー・工務店の情報をお届けできるのが当社の情報誌です。

4月～5月にニーズが集中

ハウジングはこの季節に！

インターネットのキーワード検索で「住宅展示場」が年間で最も多く検索される時期をご存知でしょうか。答えは、4月30日～5月6日の大型連休期間です(※2)。住宅展示場への来場者組数は、2021年から2023年の過去3年において、共通して年間で5月に最も多い数を記録しています(※3)。情報誌の広告宣伝費推移においても、住宅関連業の出稿が最も多いのは5月です。「家づくり」に関する情報の需要と供給が最高潮となるのが、連休期間を中心とした4月～5月と言えます。

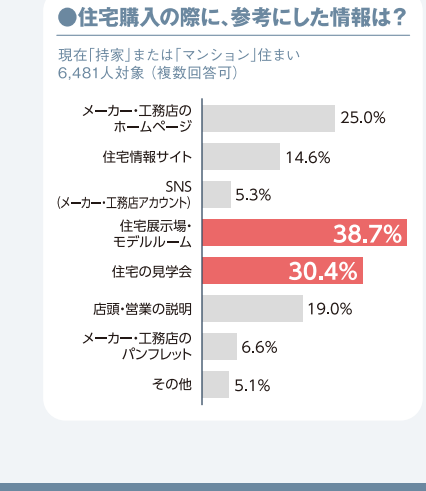
※2 Googleトレンド調べ
※3 住宅展示場協議会・住宅生産振興財団調べ



連休に備えイベント情報発信

展示会・見学会利用率は82.6%

現在の住環境が「持家」「マンション」の読者を対象に行った調査では、住居の購入にいたるまで住宅展示場・見学会を利用した人が82.6%ということがわかりました。マイホームは高額な買い物です。購入前の判断材料として多くの人が展示場や見学会を利用します。購入までに3回以上利用した人は51.8%。「家づくり」を検討する人の過半数は、展示場や見学会に3回以上足を運ぶと考えられます。住居の購入に際して参考にした情報源でも、住宅展示場・モデルルームと答えた人が最も多く38.7%。次いで住宅の見学会と答えた人が30.4%ということで、展示会や見学会が住宅購入の判断に大きく影響しています。新年度を迎えて大型連休を前にした4月は、ハウジングメーカーのイベントやキャンペーンが増えます。情報誌は、地元で家を建てたいと考える読者に最適なタイミングで「地元のハウジング情報」をお届けできる最強の媒体と言えます。



会社概要	商号	株式会社 中広 (CHUCO CO., LTD.) 東証・名証 証券コード[2139]	
	創業	1978年	
	資本金	4億430万円	
	従業員	433名 グループ全体 659名 (2024年2月末現在)	
事業内容	フリーマガジン事業 セールスプロモーション事業 クロスメディア事業	イベント・セミナー事業 通信販売事業 VC事業 (ボランティア・チェーン)	
理念	広告業を通して「地域社会への貢献」	(地方創生に!)	
社是	人が命・人が宝・人が財産 機会損失の排除	(社員が輝く組織に!) (モノ・トキ・ココロの無駄ゼロ)	
社訓	飲水不忘掘井人	(感謝の心で!)	
グループ会社	株式会社中広メディアソリューションズ 株式会社ケイ・クリエイト 株式会社ケイビーエス 株式会社 関西ぼど	https://chuco-ms.co.jp http://www.k-create.co.jp http://www.post-kps.co.jp https://www.kansaipado.co.jp	

第46期 基本方針

スローガン ABCX

テーマ 不易流行

オフィシャル運営サイト	●中広企業サイト ●中広採用サイト ●中広VCサイト ●フリモ (WEB) ●講演会インフォ ●わくわく生活 (楽天) 他 ●フリモール ●フリモールブログ ●販促blog ●HAPPY MEDIA GUIDE (情報誌見積サイト) ●ハッピーメディア®児童虐待防止運動 ●日本地域メディアネットワーク (JLMN)
公式アカウント	●Facebook ●YouTube ●Instagram ●X (旧Twitter) リンク集はこちら
加盟団体	●JLAA 一般社団法人日本地域広告会社協会



営業拠点

■ 本社 岐阜本社 岐阜市東興町27 名古屋本社 名古屋市中村区名駅1-1-1 24F	《東京都》 東京SP部 港区新橋2-16-1 9F TEL.03-6910-2940 《福井県》 きらめきくらぶ編集室 敦賀市野神40-277-2 1F TEL.0770-24-2622 《北海道》 SORA編集室 滝川市東町6-1-11 TEL.0125-74-6169 旭川市東光6条6-4-7 TEL.0166-85-6158 苫小牧編集室 苫小牧市旭町3-7-6 TEL.0144-56-5704 《宮城県》 とみいず！編集室 仙台市泉区泉中央1-33-7 2F TEL.022-341-4809 なうてい！編集室 名取市手倉田字諏訪532-1 1F西 TEL.022-797-8541 ざきっぺ！編集室 大崎市古川旭5-3-2 2F TEL.0229-25-8792 《群馬県》 高崎フリモ 前橋フリモ編集室 高崎市新保町139-1 2F [高崎フリモ] TEL.027-353-8714 [前橋フリモ] TEL.027-353-8711 伊勢崎フリモ 太田フリモ編集室 伊勢崎市茂田町2-3522-6 TEL.0270-61-6117 桐生みどりフリモ編集室 桐生市本町6-27-1 3F TEL.0277-47-7635 《埼玉県》 クッキーズ・とねじん編集室 久喜市久喜中央2-8-23 3F TEL.0480-38-6881	《東京都》 東京SP部 港区新橋2-16-1 9F TEL.03-6910-2940 《福井県》 きらめきくらぶ編集室 敦賀市野神40-277-2 1F TEL.0770-24-2622 《岐阜県》 GIFUTO編集室 岐阜市東興町27 4F TEL.058-247-2512 SARUBOBO編集室 高山市下岡本町2967-2 TEL.0577-34-5579 Wao!Club・mintoup はしまる編集室 大垣市加賀野4-1-13 [Wao!] TEL.0584-75-1960 [mintoup] TEL.0584-77-4088 [はしまる] TEL.0584-71-6226 GUJOプラス編集室 郡上市八幡町小野91-1 TEL.0575-67-0655 たんどんくらぶ編集室 岡崎市山通1-6-3 TEL.0575-24-4334 かにさんくらぶ編集室 可児市今渡字町1595-190 TEL.0574-25-7009 おりべくらぶ編集室 多治見市太平町4-38 TEL.0572-21-2626 らせんくらぶ編集室 土岐市泉西山町1-4 3F TEL.0572-55-2033 maika club編集室 中津川市巾着川字上金1231-1 TEL.0573-62-2522 官公庁営業部 岐阜市東興町27 4F TEL.058-247-2511	岐阜SP部 岐阜市東興町27 4F TEL.058-247-2511 ES部 岐阜市東興町27 4F TEL.058-248-5611 EC部 大垣市加賀野4-1-13 TEL.0584-74-0745 《愛知県》 NAGOYA FURIMO 各編集室 [中村・中川・港区版] 名古屋市中川区柳森町107 2F TEL.052-355-6111 [中央・西区・北区・名東・天白・南区版] 名古屋市中村区名駅1-1-1 24F TEL.052-433-1602 緑区フリモ・北知多フリモ編集室 名古屋市長久寺大田1-150 2F TEL.052-829-0270 守山フリモ アサヒセット・ひまわりくらぶ編集室 尾張旭市東本郷ヶ原町3-53 2F [守山フリモ] TEL.0561-42-5799 [アサヒセット] TEL.0561-42-6981 [ひまわりくらぶ] TEL.0561-42-6971 ゆいまるくらぶ・さんごくらぶ かなうくらぶ編集室 愛知郡東郷町北山4-1-6 [ゆいまるくらぶ] TEL.0561-42-4850 [さんごくらぶ] TEL.0561-42-4885 [かなうくらぶ] TEL.0561-42-4855 Cocon club・ちるくらぶ 安城フリモ編集室 知多郡東浦町大字緒川字下沙田17-1 TEL.0562-85-1077 リパル倶楽部編集室 犬山市松本町2-29 TEL.0568-39-6111 岡崎フリモ・西尾フリモ編集室 岡崎市明大寺町字寺東9-1 5F TEL.0564-83-7121 名古屋SP部 名古屋市中村区名駅1-1-1 24F TEL.052-571-2139	《三重県》 ぼろんくらぶ編集室 桑名市殿町10 TEL.0594-25-9988 Bellve club編集室 鈴鹿市神戸1-10-10 TEL.059-373-4400 よっかいちai編集室 四日市市鶴の森1-5-16 8F TEL.059-325-7562 つっぴ〜ず編集室 津市栄町1-840 5F TEL.059-213-7666 リー・グラクラブ編集室 名張市鴻之台3番町36-1 TEL.0595-41-0156 ふぁみんくらぶ編集室 松阪市東町596 3号楼 1-A TEL.0598-31-3623 イセラクラブ編集室 伊勢市岩洲3-6-5 2F TEL.0596-63-8282 からっと倶楽部編集室 尾鷲市坂場西町2-34 2F TEL.0597-37-4100 さみっとくらぶ編集室 志摩市阿児町鶴方2850-126 D号室 TEL.0599-65-7201 《滋賀県》 ぼてじゃこ倶楽部編集室 長浜市宮司町1161-7 2F TEL.0749-68-2577 こんぎくらぶ編集室 彦根市長曾根町9-22 1F TEL.0749-26-0555 オウテクラブ編集室 近江八幡市桜宮町289 3F TEL.0748-36-1148 湖南フリモ・甲賀フリモ編集室 栗東市手原5-6-19 TEL.077-596-3335	びわこと編集室 関西SP部 大津市浜大津2-1-35 6F TEL.077-521-3911 《奈良県》 かしるくらぶ編集室 橿原市葛木町260-1 1F TEL.0744-48-0606 《和歌山県》 まいなが編集室 岩出市高瀬84-2 2F TEL.0736-67-7630 《鳥取県》 つばさ編集室 鳥取市吉方温泉3-860 2F TEL.0857-30-6446 くらくらぶ編集室 倉吉市山根540-1 4F TEL.0858-27-0510 こはくらぶ編集室 米子市西福原2-9-49 2F TEL.0859-21-5400 《福岡県》 マイタウン・西区版編集室 福岡市早良区西新5-1-30 3F TEL.092-833-5250 むなふ・おるね編集室 宗像市土穴1-3-34 1F [むなふ] TEL.0940-72-6101 [おるね] TEL.0940-72-6102 福岡SP部 北九州市小倉北区堺町1-3-15 4F TEL.093-383-7581 《佐賀県》 月刊TOSS編集室 鳥栖市東町1-1064-15 1F TEL.0942-50-9619 ■ VC事業部 岐阜市東興町27 4F TEL.058-247-2511	■ グループ戦略統括事業部 名古屋市中村区名駅1-1-1 24F TEL.052-562-2139 ■ 管理本部 経理部・総務人事部 岐阜市東興町27 2F TEL.058-240-4005 [購買流通課] TEL.058-246-0285 ■ グループ会社 株式会社関西ぼど 本社 大阪市西区靱本町1-10-24 5F TEL.06-6479-3113 北大阪支社 寝屋川市大利町10-10 1F TEL.072-827-0817 東大阪営業部 東大阪市下小阪2-14-16 3F TEL.06-6729-8101 株式会社中広メディアソリューションズ 横浜支局 横浜市中区真砂町3-38 5F TEL.045-225-9267 埼玉支局 さいたま市南区南浦和2-39-16 3F TEL.048-767-8238 仙台支局 仙台市若林区新寺1-2-26 5F TEL.022-792-8101 山形オフィス 山形市諏訪町1-1-1 2F TEL.023-616-7390 株式会社ケイ・クリエイト 本社 一宮市木曽川町里小牧寺東125 TEL.0586-86-0608 東尾張支社 岩倉市新柳町1-50 2F TEL.0587-96-8331 株式会社ケイビーエス 岩倉市新柳町1-50 2F TEL.0587-96-8336
--	---	---	---	--	--	---